

| | |
|-----|-----------|
| 学校名 | 唐津市立第五中学校 |
|-----|-----------|

| | |
|------------------|---|
| 1 前年度 評価結果の概要 | <p>・重点取組(学力向上・心の教育・健康づくり・働き方改革・特別支援教育・キャリア教育・特別活動)について成果指標を設定し、概ね良好な評価を得たが、一部で数値目標未達や指標設定の見直しが必要であり、PDCAサイクルの一層の活用が課題である。</p> <p>・学力の向上については、全国・県調査ともに全教科で平均を下回る結果となり、指導方法の改善や質の高い学びの実現に向けた継続的な研究が必要である。</p> <p>・いじめ対応や教育相談は改善傾向にあるものの、生徒の肯定的評価は十分とは言えず、取組の可視化とともに、安心感の向上に向けた更なる充実が求められる。</p> |
|------------------|---|

| | |
|----------|--|
| 2 学校教育目標 | <p>学校教育目標：つながろう！五中！ ～学びと、地域と、人と つながる・つなぐ～</p> <p>キーワード：「行動」「協働」「感動」</p> <p>校訓：みなぎる力、輝く希望、あふるる光</p> |
|----------|--|

| | |
|------------|---|
| 3 本年度の重点目標 | <p>I 知：豊かな学力の育成と個に応じた指導の充実 ⇒1.教師の授業力の向上 2.特別支援教育の充実</p> <p>II 徳：豊かな人間性の育成と社会規範の醸成 ⇒1.開発的生徒指導の推進 2.キャリア教育の推進 3.生徒会活動の活性化 4.人権・同和教育の充実 5.道徳の授業を核とする道徳教育の充実</p> <p>III 体：健康な心と体の育成 ⇒1.健康教育・安全教育の充実 2.教育相談等の校内支援体制の確立</p> <p>IV 校務分担と協働による「働き方改革」の推進 ⇒1.業務の効率化を図り、生徒と関わる時間の増加促進 2.部活動ガイドラインに沿った部活動指導の推進</p> |
|------------|---|

| | | | |
|---------------|------|--------|--|
| 4 重点取組内容・成果指標 | 中間評価 | 5 最終評価 | |
|---------------|------|--------|--|

| (1)共通評価項目 | 重点取組 | | | 中間評価 | | 最終評価 | | 学校関係者評価 | | 主な担当者 | |
|---|--|--|--|--|---------|----------|---------|---------|----|-------|-------------------------------------|
| | 評価項目 | 取組内容 | 成果指標(数値目標) | 具体的取組 | 進捗度(評価) | 進捗状況と見通し | 達成度(評価) | 実施結果 | 評価 | | 意見や提言 |
| | | | | | | | | | | | |
| ●学力の向上 | ○基礎学力の定着と主体的・対話的で深い学びを実現する授業の実践 | ○「授業内の小テストや演習問題などを行うことで分かるようになった問題が増えた」、に対して、肯定的な回答をする生徒が80%以上。 ○「見通しをもって学習を行うことでより主体的に取り組むことができた」に対して、肯定的な回答をする生徒が80%以上。 | ○「授業内の小テストや演習問題などを行うことで分かるようになった問題が増えた」、に対して、肯定的な回答をする生徒が80%以上。 ○「見通しをもって学習を行うことでより主体的に取り組むことができた」に対して、肯定的な回答をする生徒が80%以上。 | ・全職員が校内研修や学年・教科部会を通して、指導方法を共有しながら、 ①授業の中で基礎知識を定着させる場面や自分の考えを表現する場面を設定した授業を実践する。 ②5Goラーニングを活用した学習過程を作成し実施していく。 | | | | | | | ◎学力向上コーディネーター ◎研究主任 ◎全職員 |
| ●心の教育 | ●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 | ○学校内外の行事や道徳の授業における活動を通して、思いやりや社会性豊かな心を身に付けることができたと感じる生徒の割合が85%以上。 | ○学校内外の行事や道徳の授業における活動を通して、思いやりや社会性豊かな心を身に付けることができたと感じる生徒の割合が85%以上。 | ・学校行事(体育大会、文化発表会など)や学年行事(修学旅行、子育てサロン、職場体験学習、松葉かきボランティアなど)において、その取り組みの過程で、支え、承認し、称賛することで、生徒のより自発的な活動を促す。 ・道徳では、共に考え共に語り合っつながることができるような授業を行う。 ・「5Goトーク」やグループエンカウンター等を授業の中で取り組み定着をはかっていく。 | | | | | | | ◎道徳主任 ◎総合的な学習担当 ◎学年主任 ◎各担任 |
| ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 | ○いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 | ○「いじめ防止、対応についての共通理解を図り、寛知時には組織的対応ができています」と回答した職員の割合が90%以上。 ○「学校は、いじめの問題について、未然防止や早期発見・対応に取り組んでいる。」と回答した生徒の割合が80%以上。 | ○「いじめ防止、対応についての共通理解を図り、寛知時には組織的対応ができています」と回答した職員の割合が90%以上。 ○「学校は、いじめの問題について、未然防止や早期発見・対応に取り組んでいる。」と回答した生徒の割合が80%以上。 | ・職員に対して年に数回のいじめの定義、いじめ防止・対応等についての研修を行う。また、生徒の気持ちや抱えている問題に対応していけるように毎月生活アンケートを行う。 ・寛知時には、対策委員会を立ち上げ、管理職や各学年職員、保護者と連携しながら解決に努める。 | | | | | | | ◎生徒指導主事 ◎全職員 |
| ●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動 | ○児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動 | ●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒90%以上 ◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上 | ●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒90%以上 ◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上 | ・生徒に出番と役割を与え、その頑張りと善行を積極的にほめ、学級活動や職員間で共有する。 ・キャリア教育や講演会等を通して社会とのつながりや将来へ希望や期待を感じさせるような取り組みの充実。 ・教師自らが、夢を持ち、その実現に向けて努力する姿を見せる教育を実践する。 | | | | | | | ◎教頭 ◎学年主任 ◎全職員 |
| ●「望ましい生活習慣の形成」 | ○「望ましい生活習慣の形成」 | ②生活習慣に関するアンケートを実施し、それぞれについて心掛けている生徒の割合が、早寝・早起き80%、朝ごはんを食べる95%、適度な運動85%以上。 | ②生活習慣に関するアンケートを実施し、それぞれについて心掛けている生徒の割合が、早寝・早起き80%、朝ごはんを食べる95%、適度な運動85%以上。 | ・生徒集会・学級活動を通して生徒へ呼び掛け、アンケートを実施し、結果を生徒にフィードバックすることで、生徒のタイムマネジメント力を育む環境の充実を図る。 ・各種通信、面談を通して保護者との連携をしながら取組を進める。 | | | | | | | ◎養護教諭 ◎保健主事 ◎食育担当 ◎体育主任 |
| ●生徒の心を健康にする教育相談の推進 | ○生徒の心を健康にする教育相談の推進 | ○教育相談等で「学校は相談しやすい環境を整え対応している」と回答した生徒の割合が85%以上。 | ○教育相談等で「学校は相談しやすい環境を整え対応している」と回答した生徒の割合が85%以上。 | ・気になる生徒の把握をする会議を定期的に行い、支援方法の協議をする。 ・職員が生徒の変化に気づきやすいように、毎月1回の生活アンケートを行う。 ・SCやSSWの活用、外部機関などの周知と連絡調整を行う。 ・教育相談に関する研修を行う。 | | | | | | | ◎教育相談担当 ◎全職員 |
| ●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 | ○業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 | ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上 | ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上 | ・学年対応や学校行事における業務内容の精選と校務分掌の分担化を企画で検討する。 ・各自月1回の年次休暇の取得と本人及び家族の誕生日等での年休取得1回を周知する。 ・部活動ガイドラインに則った休業日実施率100%を目標に掲げ職員に周知する。 ・会議のペーパーレス化を進めることで、資料の印刷、配布などの負担を軽減し効率化を図る。 | | | | | | | ◎教頭 |
| ●特別支援教育の充実 | ○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上 | ○生徒に対する教科や生活指導のあらゆる場面で特別支援教育を意識して指導を行うことができた」と回答した教員80%以上。 | ○生徒に対する教科や生活指導のあらゆる場面で特別支援教育を意識して指導を行うことができた」と回答した教員80%以上。 | ・特別支援教育に関する研修会の実施する。 ・ケース会議の開催、関係者間での情報共有を行う。 | | | | | | | ◎特別支援教育コーディネーター |

| (2)本年度重点的に取り組む独自評価項目 | 重点取組 | | | 中間評価 | | 最終評価 | | 学校関係者評価 | | 主な担当者 | |
|----------------------|---|--|--|--|---------|----------|---------|---------|----|-------|-------------------------------|
| | 評価項目 | 重点取組内容 | 成果指標(数値目標) | 具体的取組 | 進捗度(評価) | 進捗状況と見通し | 達成度(評価) | 実施結果 | 評価 | | 意見や提言 |
| | | | | | | | | | | | |
| ○キャリア教育 | ○キャリアパスポートによる自己成長のための見直しと振り返りにより、生徒の志を高める | ◎「自分なりに将来の夢や目標をもつことができている」と回答した生徒の割合が80%以上。 ○「SDGsの視点を意識して行動することができるようになった。」と回答する生徒の割合が80%以上。 | ◎「自分なりに将来の夢や目標をもつことができている」と回答した生徒の割合が80%以上。 ○「SDGsの視点を意識して行動することができるようになった。」と回答する生徒の割合が80%以上。 | ・キャリアパスポートの記入による、見直し立てと振り返り活動を行う。 ・キャリアパスポートと学校生活を繋げることで、自分の個性や長所に気付かせる。 ・特別活動及び各教科や総合的な学習の時間において、SDGsの視点と関連した内容を提示しながら指導に当たることによって生徒にSDGsの視点を意識させるように努める。 | | | | | | | ◎総合的な学習担当 ◎特別活動担当 ◎学年主任 |
| ○特別活動の充実 | ○生徒の主体的な活動の活性化 | ○規則正しい生活習慣の醸成を生徒を中心に、あいつの意識づけや、授業遅刻者を0(ゼロ)にする。 ○学校内外の生徒会活動における「生徒自身の企画立案による活動」を支援する。 | ○規則正しい生活習慣の醸成を生徒を中心に、あいつの意識づけや、授業遅刻者を0(ゼロ)にする。 ○学校内外の生徒会活動における「生徒自身の企画立案による活動」を支援する。 | ・生徒会本部による「朝のあいさつ運動」、「昼休み終了の予鈴の2分前の呼び掛け」、「帰りの会の立腰の呼び掛け」を行う。 ・学校内外行事を生徒主体で行うように、生徒会に企画、運営させる。 | | | | | | | ◎生徒会担当 ◎全職員 |

| | |
|----------------|----------------------------------|
| 5 総合評価・次年度への展望 | <p>◎…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育</p> |
|----------------|----------------------------------|